

中央防災会議
「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」(第4回)
議事概要について

中央防災会議事務局(内閣府(防災担当))

1. 専門調査会の概要

日時 : 平成16年9月6日(月)10:00~12:00
場所 : 虎ノ門パストラル「ミモザ」
出席者 : 溝上座長、阿部、新谷、伊藤、今村、笠原、島崎、杉山、中埜、山崎の
各専門委員、
柴田政策統括官(防災担当)、上総参事官(地震・火山対策担当)、他

2. 議事概要

事務局から資料の説明後、各委員に御議論いただいた。各委員からの意見等は以下のとおり。なお、詳細な議事録については後日各委員の確認を経た上で公表の予定。

「検討対象とする地震について」に関する意見等

宮城県沖の地震については、その切迫性も踏まえて他の地域の対象地震よりも優先的に検証を進めてはどうか。

房総地域にとって影響が大きい相模トラフ沿いの地震は、当専門調査会の直接的な対象ではないが、今後取り扱いについて整理する必要があるのではないかと。

地震像をどのように捉えるかの検討においては、防災的な観点から捉えることが大切である。

明治三陸地震を、1968年十勝沖地震の震源域を海溝軸付近まで広げた断層領域で検討するという方針については理解できる。

今後、地震動解析の結果を公表することになると思うが、その際は地震動波形の持つ意味合いや計算の考え方をこれまでと同様、適切に示すことが必要である。

宮城県沖は、陸側のプレート間が破壊された場合の強震動が注目され勝ちだが、1793年のように海溝側と連動した場合の津波について検討が必要である。

1978年の宮城県沖地震については、丘陵開発、人工地盤の問題など、都市型災害的な側面から、地盤特性を考慮に入れた被害像を検証しておく必要がある。

地震に伴う内陸部の山体崩壊については、大事なテーマであり、可能な範囲で検討してはどうか。

<連絡・問い合わせ先>

内閣府 地震・火山対策担当参事官補佐 尾崎 友亮

参事官付主査 宮川 康平

TEL : 03-3501-5693 (直通) FAX : 03-3501-5199